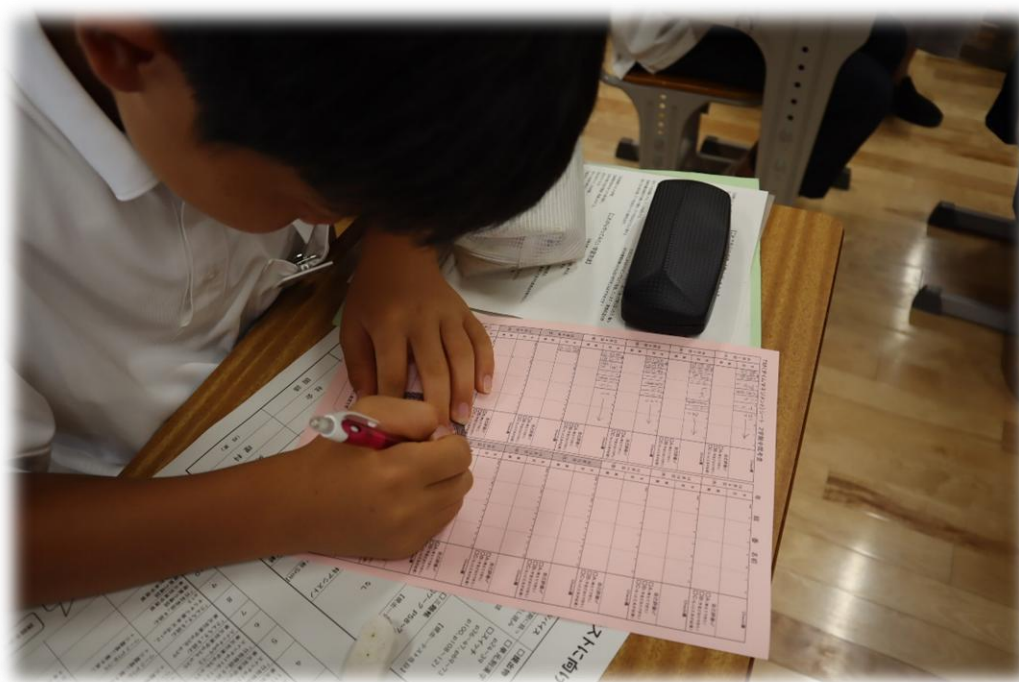


令和7年度

学校経営方針



PM/TM シートを活用した学習計画作成の様子



丹波市立山南中学校

「令和7年度学校経営方針」の策定にあたって

1 はじめに ～令和の日本型学校教育の構築～

私たちが生きる21世紀は、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」、新型コロナウイルスの感染拡大などに見られた先行き不透明な「予測困難な時代」と言われています。このような時代を自分らしく力強く生き抜くためには、「一人ひとりが自分のよさや可能性を認識するとともにあらゆる他者を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる力」が必要です。

私たち教職員には、必要な改革を躊躇なく進めることで従来の日本型学校教育を発展させつつ、すべての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを推進し、「令和の日本型学校教育」を実現させることが求められています。

2 統合に対する地域の願い ～地域とともにある学校づくりの推進～

平成23年6月にはじまった「山南地域のこれからの教育を考える会」の提言を受け、「統合準備委員会」が設置され、山南中学校・和田中学校の統合に向けた協議がすすめられました。地域の様々な立場の方々が何度も足を運び、時間をかけて、新しい学校の在り方を決めてきました。平成31年3月の新校舎建設場所決定後も、遠距離通学支援策をはじめ、制服、校歌、校章、PTAの在り方、等について協議されてきました。

そして迎えた令和5年4月、山南中央公園跡地に新しく山南中学校が開校しました。温もりのあるアースカラーの外観や丹波市産の木材や伝統技術が施された内装とともに、すべての普通教室にプロジェクターが標準設置される等、親しみのある新しい学びに対応する環境となっています。山南中学校には、山南地域をひとつにつなぐことと同時に、過去と未来の架け橋となることが期待されています。

この思いを形にするため、令和5年8月には地域住民や保護者の代表、教職員が集まり、ともに山南中で学ぶ子どもたちの未来の姿を見据えた熟議を開催しました。これを受け、立ち上げた学校運営協議会では、学校の現状について情報を共有し、よりよい学校の在り方について協議するとともに、地域行事やボランティアグループ活動等の地域資源を生かしたキャリア教育の充実に向けて、子どもたちにつけたい力を明らかにしながら、連携して取組をすすめています。



学校運営協議会の様子 R6.4



ちーたん FRIENDS 打合せ会 R6.12

3 自分たちの学校は自分たちでつくる ～新しい学校の文化～

令和7年3月、統合前の山南中、和田中を知るすべての生徒が卒業しました。今後在籍するすべての生徒が統合後に入学してきた生徒となります。

新3年生は入学してからの2年間、統合前の2つの学校の伝統を生かしながら、責任と誇りを持って新しい学校の基盤をつくってきた上級生の姿を見てきました。そんな先輩に憧れ、「いつか自分たちもこうなりたい」と思い焦がれてきました。いよいよその思いを実現するときがきました。しかし、先輩たちの「まね」をするだけでは、憧れのままで終わってしまいます。先輩たちが築いてきた基礎の上に、自分たちの思いを形にしながらどれだけ積んでいけるのか。この気持ちを持ち続けることが大切になります。私たち教職員は、生徒の思いを尊重しながら、支え導いていくことが求められます。

体育祭や文化祭などの行事、日頃の委員会活動、学級活動、部活動、そして日々の学習活動(授業)。指示を待って行動するだけでなく、自分たちで考えてよりよいものをつくる。この意識が新しい学校の文化となって根付くことを期待せずにはられません。

4 よりよい学校の在り方を探って ～教職員の取組～

新しい学校の基盤づくりは予想以上にエネルギーを必要としました。特に校区が拡大したことによる通学時の安全確保は喫緊の課題でした。バス運行にあたっては、バス会社と連携しながら臨時バスの設定や運行時間の調整をしたり、ダイヤに合わせて校時を編成したりと、従来の学校にはない業務も発生しました。日替わりで校時が変更されるなど生徒にとってもストレスのかかる状態でした。また、GIGA スクール構想の推進や部活動の地域連携などの教育課題への対応も、教職員にとって負荷がかかる取組となっており、働き方改革との両立は困難を極めました。

しかし、下校時刻の見直しや部活動の在り方検討等、教職員一人ひとりがよりよい学校の在り方を考えることで、新しいアイデアが生まれ課題解決につながってきています。教職員も「自分たちでつくる」という姿勢で、これからも学校づくりに主体的に取り組みたいです。



教職員熟議の様子 R5.12

5 令和7年度に向けて

これからの学校の運営にあたっては、所属する教職員全員がそれぞれの役割を果たしつつ、「こんな学校にしたい」「自分にできることはないか」等の意識を持って、主体的に関わっていくことが必要です。そこで大切になるのは「目標の共有」と「役割分担」です。普段から何でも話し合える雰囲気づくり、お互いを信頼し支え合える仲間づくりをすすめることも大切です。

毎年行う学校評価アンケート(教職員・生徒・保護者)の結果をはじめ、全国学力・学習状況調査結果等の学習成果、教育課程・校務分掌評価等の内部評価結果を踏まえ、令和7年度山南中学校の学校運営方針・重点取組事項をまとめました。これに基づき、学校運営協議会とも連携しながら、教職員が一丸となって学校づくりをすすめていきましょう。



【生徒の姿】

- 規範・人権意識が高く、いじめや暴力のない学校をつくりたいと考え、行動している
- 仲間を大切に、協力・工夫しながら様々な活動に取り組むことができる
- 真面目な態度で学習に取り組めるが、主体的、計画的に学ぶ力の定着は今後の課題である



【保護者・地域の願い】

- 自分で考え、判断し、行動できる人になってほしい
- 思いやりのある人になってほしい
- 家族、友達、地域を大切にしてほしい
- 夢や目標を持ち、それに向かって努力し続けてほしい

【兵庫県基本理念】

兵庫が育む ところ豊かで自立する人づくり
「絆を深め、在りたい未来を創造する力」の育成

【丹波市基本目標】

人を愛し ふるさとを想い
しあわせのカタチを創造できる 人づくり



【学校教育目標】

地域に誇りを持ち 豊かな人生を切り拓く生徒の育成

～ふるさと山南で育む つなぐ・ひろげる・つくりだす力～

【めざす生徒の姿】

- 自らの目標に向かって学び続ける生徒
- 自分で考え、判断し、行動できる生徒
- 多様な人々と協働しながら困難に立ち向かえる生徒
- 自分も他者も大切にできる生徒
- 地域、社会に貢献できる生徒



【めざす教職員の姿】

- 生徒一人ひとりのよさを最大限に引き出し、主体的、協働的な活動を支援する教職員
- 学校教育を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、学び続ける教職員
- 家庭や地域と連携しながら学校づくりにチームで取り組む教職員
- 教育者としての誇りをもって働く教職員



4つの重点取組項目

【すべての生徒が安心して
学び生活できる居場所づくり】

- 生徒の内面理解に基づく対話を大切にした指導・支援の充実
- いじめ・暴力を許さず、不登校を生まない学校風土の醸成
- 一人ひとりが認められ自己有用感を感じる自治活動の推進

【生涯学び続けるための
基盤となる力の育成】

- 授業のUD化を基盤に、すべての生徒が意欲的に取り組む授業づくり
- 自らの課題解決に向け、自分自身で学びをマネジメントする力の育成
- 自ら学び、難しいことにも諦めず挑戦しようとする態度の育成

【教職員の組織力・指導力
向上と業務改善の推進】

- 風通しのよい職場風土の醸成と校内組織の見直し・活性化
- 計画的な業務遂行・年休取得等によるワークライフシナジーの実現
- OJTを核とする研修機会の充実

【地域資源を生かした
キャリア教育の推進】

- 地域の「ひと・こと・もの」を生かしアントレプレナーシップ教育の視点を踏まえたキャリア教育の推進
- 地域に貢献しようとする態度の醸成
- 学校運営協議会を核とした地域との連携充実



令和7年度 4つの重点取組項目に関する具体的な手立て

1 すべての生徒が安心して学び生活できる居場所づくり

- (1) 生徒の内面理解に基づく対話を大切にした生徒指導、支援の充実
 - ・傾聴を心がけ、生徒一人ひとりを「認める」「褒める」「伸ばす」指導の徹底
 - ・生活指導委員会、各学年会を核とする組織的な校内体制の充実
 - ・定期的実施する生活アンケートの活用と生徒面談の充実
- (2) いじめ・暴力を許さず、不登校を生まない学校風土の醸成
 - ・些細な変化を見逃さない取組（未然防止、早期発見、即対応）の充実
 - ・同和、平和を核とする人権課題解決に生徒主体で取り組む活動の充実
 - ・教育支援センター「レインボー」をはじめとする関係機関との連携強化
- (3) 生徒一人ひとりが認められ自己有用感を感じる自治活動の推進
 - ・生徒会活動を中心とした生徒自身が主体的、協働的に取り組む活動の充実

【評価指標】

- 「困りごとや悩みごとを相談できる先生がいる：80%」（年度末：生徒アンケート）
- 「不登校：前年度より減、新規不登校：0」（年度末：実人数）
- 「山南中の生徒でよかったと思う：100%」（年度末：生徒アンケート）

2 生涯学び続けるための基盤となる力の育成

- (1) 授業のUD化を基盤に、生徒が意欲的に取り組む授業づくり
 - ・生徒一人ひとりの課題に対応した具体的支援策の共有
 - ・探求型授業等、生徒が意欲的に学習に取り組む授業づくり
 - ・各種調査結果等を生かした基礎基本の確実な定着に向けた学習支援の推進
- (2) 学びのマネジメント力の育成
 - ・生徒一人ひとりの課題に応じた目標設定（目標達成シートの活用）
 - ・「何を」「いつ」「どれだけ」取り組むのかを可視化した行動スタイルの構築
- (3) 自ら学び、難しいことにも挑戦しようとする態度の育成
 - ・英検チャレンジ事業等、自ら学ぶ機会の積極的な活用
 - ・「丁寧な指導」から「適切な支援」への転換

【評価指標】

- 「もっと学習したい、わかりたいと思う：80%」（年度末：生徒アンケート）
- 「自分の課題に応じたやり方で計画的に学習している：80%」（年度末：生徒アンケート）
- 「難しいことでもあきらめずに挑戦している：80%」（年度末：生徒アンケート）

3 教職員の組織力向上と業務改善、人材育成

- (1) 風通しのよい職場風土の醸成と校内組織の活性化
 - ・校内組織を生かした教職員の協働体制の充実
 - ・会議時間、協議内容を明確にした計画的な会議の開催
（時間割内に時間設定、年間行事予定表に明記）

- ・教育評価を活用した組織、業務の見直し、改善
- (2) 計画的な業務遂行、年休取得等によるワークライフシナジーの実現
- ・タイムマネジメントによる「時間」を意識した働き方の推進（記録簿の活用）
 - ・計画的な年休取得の推進
- (3) 研修機会の充実
- ・研修委員会を中心にした計画的な研修会の開催
 - ・OJT、自主研修の奨励

【評価指標】

- 「校務分掌に基づき、教職員全員で組織的・協働的に教育活動に取り組んでいる：80%」（年度末：教職員アンケート）
- 「年休取得日数：各学期2日以上」（年度末：実時間数）
- 「自己研鑽に努めている：80%」（年度末：教職員アンケート）

4 地域資源を生かしたキャリア教育の推進

- (1) 地域の「ひと・こと・もの」を生かしたキャリア教育の推進
- ・地域課題から自らの取組を考え、発信する機会の充実
 - ・アントレプレナーシップ教育の視点を踏まえた系統的な取組の確立
- (2) 地域に貢献しようとする態度の醸成
- ・トライやる・ウィークの実施や地域行事への参加等、生徒が地域で活動する機会の充実
 - ・PTA や地域の活動団体等と連携した取組の充実
- (3) 学校運営協議会を核とした地域との連携充実
- ・学校運営協議会を核とした地域の思いを学校運営に生かす機会の充実
 - ・学校行事やオープンスクール等、教育活動の積極的な公開と学校ホームページ、通信の充実

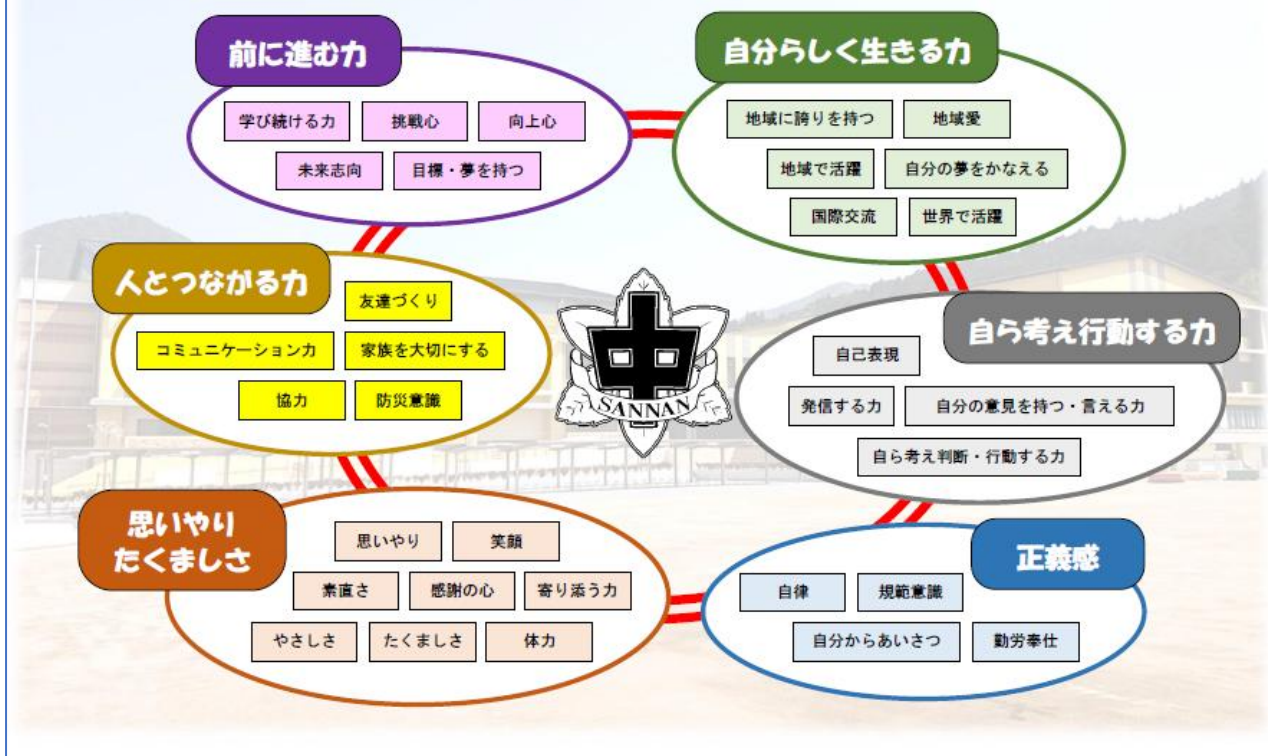
【評価指標】

- 「保護者、地域等と連携して教育活動をすすめている：80%」（年度末：教職員アンケート）
- 「学校の様子を学校だよりや学年・学級通信、HP 等により知ることができる：80%」（年度末：保護者アンケート）
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある：80%」（年度末：生徒アンケート）



学校職員・保護者・地域住民代表熟議のまとめ R5.8.24

第1回熟議のまとめ (R5. 8. 24) テーマ:『山南中で育てたい生徒の力・姿』



学校職員熟議のまとめ R5.12.25

